

執筆者紹介

樫原 稔	本学大学院外国語学研究科欧米言語文化専攻博士前期課程修了（2020年3月）
小田 千賀子	本学大学院外国語学研究科欧米言語文化専攻博士後期課程1年
鈴木 宏枝	本学外国語学部教授
布川 雅英	本学外国語学部非常勤講師
松本 和也	本学国際日本学部教授

編集後記

パンデミックで大変な一年となってしまいましたが、その中でも今回の号で5人の方の学術上大変意義のある論文をお届けすることができることは大変喜ばしいことです。このような世の中の状況で、論文を書き上げるには大変なご苦労があったことと思います。

本号ではまず、1名の修了生と1名の学生さんの論文を紹介しております。修了生の樫原稔氏はボリビアにおける伝統医療の形成過程を跡づけることでその特徴と意義を明らかにし、在学生の小田千賀子氏は言語獲得期を過ぎた後の「大人」による第二言語習得の視点から、日本語母語話者が学ぶスペイン語の動詞の特徴に着目して検証しています。また本号では3名の先生方にもご投稿いただきました。鈴木宏枝先生はJ. K. Rowling 作の Harry Potter シリーズにおける Voldemort の悪に注目して議論を展開し、布川雅英先生は現代中国語の「完了」を表す時態助詞の“了”を取り上げ“了”を用いた完了表現に関して具体的に考察をし、松本和也先生は「あいちトリエンナーレ 2019」をめぐる言説について大変興味深い議論を展開しておられます。

外国語学研究科の多岐にわたる研究の発展を象徴するような論文5本であるといえるでしょう。今号の論文刊行に投稿していただいた著者の方々が今後も益々有意義な研究を続けていかれることを願うばかりです。

（編集委員 細田由利）

投稿規定

1. 投稿は本大学院に在籍する者か、本学教員に限る。ただし、指導教授の推薦により、博士前期・後期を修了した後の2年間は投稿できるものとする。
2. 論文は原則として、専攻分野に関わる領域を対象としたものとする。
3. 完全原稿を提出すること。

- ・ 長さは、日本語・中国語の場合はA4版（横33字、縦29行）で20枚（2万字程度）、その他の言語の場合はA4版（横68字、縦25行）で30枚程度とする。

- ・ 原稿には英文の標題をつけ、ローマ字表記の名前を明示する。

（例）

Verbal Irony and Echoic Use KANAGAWA Tarou

The phonological system of Hum mong ja hoe KANAGAWA Hanako

- ・ 校正は再校まで執筆者が行うこととし、その際、コンピューター処理に関わるもの以外の加筆・削除は認めない。

- ・ 原稿を提出する際は、次の3点を提出すること。

ア) 完全原稿を出力したもの 1部

イ) 原稿表紙（名前・所属・連絡先・論文標題を記した一覧表）
1部

ウ) 外部メモリ（USB等）にア)とイ)を保存したもの（後ほど返却）

4. 原稿提出締め切り：11月30日（厳守）

（執筆者は7月31日までに編集委員に提出論文の概要と予定字数を予告すること。）

（2011.12.14 研究科委員会承認）

神奈川大学大学院
言語と文化論集 第27号

2021年2月 印刷
2021年2月 発行

編集発行 神奈川大学大学院
外国語学研究所
(横浜市神奈川区六角橋 3-27-1)

製 作 共立速記印刷株式会社